

R P P Cメール

リサイクルポート推進協議会

第541号（平成26年8月13日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》 今週の報道発表はございません。

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 広報部会開催日程について
2. 次回汚染土壌事業化PT開催日程について
3. 境港にリサイクル工場建設で協定書調印
--平林金属（岡山）、海老田金属（米子）と鳥取県、境港市--

【境港管理組合提供情報】

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 交通政策審議会第57回港湾分科会を開催
2. ゼロテクノ、高品質フライアッシュで海上輸送も検討

=====

《事務局からのお知らせ》

1. 平成26年度 第1回 広報部会は、みなと総合研究財団3階会議室において
8/19（火）15:30～17:00の日程で開催いたします。
2. 次回（第5回）汚染土壌事業化PTは、みなと総合研究財団3階会議室において
8/22（金）15:30～17:30の日程で開催いたします。
3. 境港にリサイクル工場建設で協定書調印

--平林金属（岡山）、海老田金属（米子）と鳥取県、境港市--

鳥取県境港昭和工業団地に平林金属（岡山市、平林実社長）と海老田金属（米子市、海老田耕三会長）の2社が計画するリサイクル工場の進出が固まり、今月8日、平井伸治知事、中村勝治境港市長が出席のもと調印式が行われた。両企業で使用済自動車や小型廃家電の収集、中間処理、破碎分別、再資源化等のリサイクル事業を連携して行い、リサイクル製品は海路で国内外に輸出・移出される計画。

工場の進出予定地は、国と境港管理組合が整備中の中野地区国際物流ターミナルに隣接しており、ふ頭利用計画の再編によりリサイクル貨物の増加にも対応可能としている。

境港は、2011年にリサイクルポート（総合静脈物流拠点港）に指定、2013年のリサイクル貨物取扱量は前年度比26%増の約3万7千トンに伸びており、指定後初めてとなる関連工場の立地により、今後、東南アジア方面への輸出入の拠点港として活用が期待される。

★詳しい内容につきましては添付ファイルをご覧ください★

【境港管理組合提供情報】

【事務局】

=====

1. 交通政策審議会第 57 回港湾分科会を開催

交通政策審議会第 57 回港湾分科会（分科会長・黒田勝彦神戸大学名誉教授）が 8 月 6 日に開かれ、日本海側拠点港の取組状況について事務局が報告したほか、港湾法の改正に伴う「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」の変更について審議した。基本方針の変更手続きは同日の審議を踏まえて今後関係機関への事前意見照会やパブコメ手続きを行い、今年 11 月開催の次回港湾分科会で答申を得て、年末に基本方針変更告示を行う予定。

変更内容は「国際戦略港湾の港湾運営会社に対する政府の出資」ならびに「国際戦略港湾における無利子貸付制度の対象施設の拡大」、「特別特定技術基準対象施設の改良に係る無利子貸付制度」、「戦略的維持管理の推進」の各事項についての記載。

【港湾空港タイムス】

.....

2. ゼロテクノ、高品質フライアッシュで海上輸送も検討

㈱ゼロテクノ（本社・大分市）は、石炭火力発電所や石炭ボイラーから排出される石炭灰を、高品質フライアッシュ（C f F A）として、再資源化する取組を進めており、今後、原料となる石炭灰やその製品を海上輸送することも検討している。石炭火力発電所は原子力発電所の中断から、その稼働率アップと共に石炭灰の発生も増える傾向にある。現状では産業廃棄物として海面処分場に埋立処分しているが、C f F Aとしてその再資源化が進めば、有価物として利用価値が高まる。また石炭火力発電所は臨海部に立地していることから、海上輸送が経済的に有利。

同社はこれまで大分市、愛媛県新居浜市にパイロットプラントを整備して製品を供給しているほか、沖縄に分級プラントを稼働させている。大分事業所（年間 5 0 0 0 t の C f F A を生産）は新日鐵住金大分製鉄所、新居浜事業所（年間 1 万 t）は住友共同電力から石炭灰の供給を受けている。また今年 7 月 1 日には日本製紙と共同で、日本製紙石巻工場のボイラーから発生する石炭灰を C f F A 化する「日本製紙ゼロテクノ東北有限責任事業組合」を設立している。

ゼロテクノ社は今後、その製品需要に応じて、船舶を通じて原料入手や製品の移出に有利な臨海部に新たな生産工場の建設を検討している。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：細貝 隆司 五洋建設（株）

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱(株)

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####

境港にリサイクル工場建設で協定書調印

平林金属（岡山）、海老田金属（米子）と鳥取県、境港市

鳥取県境港昭和工業団地に平林金属（岡山市、平林実社長）と海老田金属（米子市、海老田耕三会長）の2社が計画するリサイクル工場の進出が固まり、今月8日、平井伸治知事、中村勝治境港市長が出席のもと調印式が行われた。両企業で使用済自動車や小型廃家電の収集、中間処理、破碎分別、再資源化等のリサイクル事業を連携して行い、リサイクル製品は海路で国内外に輸出・移出される計画。

工場の進出予定地は、国と境港管理組合が整備中の中野地区国際物流ターミナルに隣接しており、ふ頭利用計画の再編によりリサイクル貨物の増加にも対応可能としている。

境港は、2011年にリサイクルポート（総合静脈物流拠点港）に指定、2013年のリサイクル貨物取扱量は前年度比26%増の約3万7千トンに伸びており、指定後初めてとなる関連工場の立地により、今後、東南アジア方面への輸出入の拠点港として活用が期待される。



平成26年8月8日 調印式